

## 会議録(要旨)

会議名	令和7年度第4回武藏村山市地域公共交通協議会
開催日時	令和7年12月24日(水)午前9時30分から午前10時30分まで
開催場所	市役所301会議室
出席者及び欠席者	<p>出席者：藤井会長、遠藤副会長、石塚委員、高坂委員、小林(愛)委員、徳山委員、土田委員、内野委員、大谷委員、前田委員、秦野委員、関谷委員、佐藤(太)委員、高筒委員、本間委員、中山委員、片桐委員、榎原委員、増田委員、今泉委員</p> <p>代理出席者：石川氏(井上委員代理)</p> <p>欠席者：指宿委員、石川委員、小林(聰)委員、吉永委員、富樫委員、吉川委員、指田委員</p> <p>事務局：交通企画・モノレール推進課長、交通企画・モノレール推進係長、同係主任、同係主事</p>
報告事項	1 令和7年度第3回協議会意見・対応(案)について
議題	<p>1 武藏村山市地域公共交通計画(原案)について</p> <p>2 その他</p>
結論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	<p>議題1について 武藏村山市地域公共交通計画(原案)について作成することを適当と認めた。</p> <p>議題2について 交通部会での検討事項について報告を行った。</p> <p>● 公共交通事業者などの関係者としてお力添えいただいた江郷委員より、12月20日をもって、一般乗用旅客自動車運送事業を廃業する旨の連絡を受けた。江郷委員については、20日付で離職されたことを報告する。</p> <p>報告事項1 第3回協議会意見・対応(案)について 【事務局説明】</p> <p>● 資料1に基づき説明</p> <p>【意見、質疑等】</p> <p>◎ 質問等はあるか。 特によろしいだろうか。いずれも反映されているという説明であった。</p> <p>議題1 武藏村山市地域公共交通計画(原案)について 【事務局説明】</p> <p>● 資料2に基づき説明</p> <p>【意見、質疑等】</p> <p>◎ 地域公共交通計画原案の説明をいただいたが、こちらは令和6年9月30日、市長から諮問を受けて作成という形で進んできている。本日の審議を受けた後、市長への答申に進んでまいりたいと考えている。それを踏まえて不備がないかもう一度確認していただいた上で、質問、意見をいただきたい。</p>
審議経過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	<p>◎：会長 ○：委員 ●：事務局</p>

○ さやま交通が廃業したということは知っていた。12月20日に廃業と聞いていた。さやま交通から移籍した人に聞くと、運転手が高齢化していることと、営業収入が減っているのに、車の整備、事務費用などの経費負担増が大きく、営業が困難という状況を聞いている。

武蔵村山市のタクシー事業者が、2年の間に2社が1社に減ったという現実を皆さんに知ってもらいたい。

パブリックコメントで最もだと思った意見が、交通空白エリアは単なるバス停までの距離、地図を見てエリアで利用圏を設定しているが、実際にバス停に行くときに道路勾配や歩行空間の安全性がどうなっているかというので、そういう視点も大事だと感じた。

パブリックコメントとこの計画案の原案を受けて、自分なりに提案がある。

地域公共交通計画を策定した後、実行していくためにいろいろな施策が入っているが、これをリードしていくいくつかの実行プロジェクトと体制を作ることが大事である。

まず職員がノーマイカー通勤の日を設け、市役所まで公共交通機関で来る。それによって市内の地域公共交通の課題を実感してもらう。さらにバスを利用すれば、バスの利用者数の増加にもつながると思う。

次に、将来ビジョンを市民にわかりやすく示して、市民とともに行動を起こし、市民を巻き込んでいく。公共交通は通勤、通学、通院以外に、来訪者の移動手段としての利用を促進することで、例えばバス停から徒歩10分エリアの魅力を地域の住民と発掘して、それに付加価値をつけて情報発信し、降りて楽しいまちにしていく。そのためには、交通計画と都市計画、立地適正化計画と合わせて両輪で進めていくべきである。

駅とバス停は芸術や建築の学生と一緒にデザインワークショップを作り、武蔵村山市オリジナルのバス停を考えてはどうか。さらに、小中学生のグループによって、バス停オーリエンテーリングなどでバス停を身近なものにしていく。とにかく市民を巻き込んでいたらどうか。

3つ目に、運転手不足への対応として、意外に武蔵村山市は大きい高低差がなく平坦なので、そういうエリアは自動運転システムの実験を行っていく。

4つ目に、災害時にモノレールが利用できないときの代替輸送を検討していく。これは東日本大震災のときにガソリンスタンドが閉鎖し、電気自動車があるものの、マイカーが使いづらくなる事態があった。このとき、タクシーはLPGガスなので、タクシーだけは通常に運行することができた。

最後に、降りて楽しいバス停と、もう1つ、乗って楽しいバスを考えていく。例えば市内を運行している一部のバスでは、車内の注意喚起のアナウンスが小学生の声なので、穏やかでほっこりする。普通の大人にアナウンスをされるよりも身近に感じられた。

また、この間、武蔵村山から玉川上水行きのバスの後をたまたま

タクシーについていったのだが、車内がイルミネーションになっていた。タクシーの乗客に言ったらびっくりしていて、レアだ、これに乗れたら良いことがあるかなと笑っていた。その後、友達が夜、イルミネーションバスに乗ったというので写真を送ってきてくれた。これは1台だけなのか。

- 1台だけである。
- このバスに乗れたら幸運が訪れるということでレアである。これが乗って楽しいバスだと思う。
- 公共交通計画の中身よりも、これを作られた後にどう地域の中で具体的なものとして展開するかということについての話であった。事務局としてはそういう受け止め方で良いか。
- いろいろな取組を参考にし、相談しながら今後について考えていきたい。
- そのほかはいかがか。

#### 【事務局説明】

- 資料3に基づき説明

#### 【意見、質疑等】

- 質疑等はあるか。
- 資料3の6ページ、図2-1、現在の公共交通ネットワークの図の中で、モノレールの各駅に破線で円がある。この円の意味合いと、駅の内側と外側の円は何を指しているのかのコメントが抜けている。追記した方が良いのではないか。
- 破線の円はそれぞれ、各駅の中心から500m、800mを示している。これは徒歩で移動できる距離を表している。なぜ500mなのか、どこから800mを取っているかについても資料に追記したい。

この図は令和7年7月末現在で把握できた図を示している。最新情報を確認し、差し替えていくことで問題ないか。

- 発行するときに最新版に更新した方が良い。時点修正で対応していただきたい。その際に円の説明も注意書きとして付していただきたい。

そのほかはいかがか。内容に関して特に意見はないようである。資料3の内容で、一部時点修正が必要な図、並びに目次のページ数の確認は事務局の方で対応させていただく。

本協議会はこの内容をもって答申していきたい。よろしいだろうか。

(異議なし)

- 事務局に答申案を示していただき、その内容について委員に配布していただきたい。よろしいだろうか。

(答申書配布)

- 答申内容について事務局より説明いただきたい。

- 答申案を朗読する。

令和7年12月24日 武蔵村山市長 山崎泰大様

武藏村山市地域公共交通協議会会長 藤井敬宏

武藏村山市地域公共交通計画について（答申）

令和6年9月30日付、武発第1215号で諮問のあったことについて、当協議会は慎重かつ十分な検討を行った結果、別紙のとおり策定することを適当と認めます。

以上である。

- ◎ この内容に基づき、諮問を受けた結果という形で答申させていただきたい。よろしいだろうか。

（異議なし）

- ◎ 武藏村山市地域公共交通計画について、7回審議していただき、協議会案として整えることができた。協力に関して御礼申し上げる。作った後に形にしていく上で、非常に大事なところである。逐次今後の本協議会の中で展開を諮りながら進めていきたい。

## 議題2 その他

- ◎ 議事2のその他について、委員から何かあるか。

事務局からは何かあるか。

- 協議会から依頼のあった事項について検討している交通部会に関して報告する。

今年度の第2回協議会において、MMシャトルの今後の方向性を示すことで、民間路線バスをどのような形で維持できるかを考えられるような情報提供をしてほしいという意見があった。

意見に対し、事務局では、路線バスとMMシャトル、むらタクの役割について話し、路線バスに先行してMMシャトルやむらタクの運行計画を示すことはできないため、事業者の意向・考え・将来予測等を伺いながら、案を整理したいと伝えた。その後、MMシャトルとむらタクの運行していただいている事業者と話す機会をいただいたという状況である。

事務局では、交通環境を踏まえ、むらタクの運用について今後検討していきたいと考えている。内容については、今後、道路状況などを確認した上で、道路運送法に基づく手続き上の協議事項となるものと考えている。

最後に、当該計画にあたっては、本日をもって、本協議会から一旦巣立っていく形になっていく。今後、必要な手続きを経て、計画として策定に至った際には報告したい。

また、計画を策定してからも、引き続きお力添えいただいていくことになる。引き続きお願ひしたい。

- ◎ プランが出て、この後、ドウ、チェック、アクションという形でつながっていく。このドウの部分が非常に大事で、そこが武藏村山市の場合はこの協議会と部会、これが連動する形で、部会の中でドウをきちんと支えていくような検討をしていかなければならない。交通事業者は社会的に厳しい状況がある中で議論を展開しなければならない。未来に向けて武藏村山は変わるんだという期待もある中で、ソフトランディングできるようなつながり方を丁寧に取り組んでいきたいと事務局も考えている。それには委員の意見、考えを忌憚なくぶつけ合う中で前に進めていくことが大事だと思う。今まで以上に意見をいただきながら前に進めていきたい。それぐらいの意思疎通が図れる場にしたいと思う。ぜひ今後とも協力をお願いする。

第4回地域公共交通協議会を閉会する。

会議の公開・ 非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">[ ]</div>	傍聴者： <u>4名</u>
会議録の開示・ 非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等： ) <input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等： )	
庶務担当課	都市整備部 交通企画・モノレール推進課 (内線：273)	